

## 第 87 回 理 事 会 議 事 録

1. 日 時 令和 5 年 11 月 7 日 (火) 12 時 15 分～14 時 10 分
2. 場 所 アルカディア市ヶ谷
3. 出 席 者
- |       |       |        |  |
|-------|-------|--------|--|
| 会 長   | 井上 圭三 |        |  |
| 副 会 長 | 楠 文代  | 中村 明弘  |  |
| 常務理事  | 田中 芳夫 | 越前 宏俊  |  |
|       | 浜岡 純治 | 加留部 善晴 |  |
| 理 事   | 杉林 堅次 | 亀井 美和子 |  |
|       | 神野 透人 | 赤路 健一  |  |
|       | 北川 裕之 | 篠塚 和正  |  |
| 監 事   | 富田 基郎 | 市川 厚   |  |
| 参 与   | 乾 賢一  | 本間 浩   |  |

〔 理事現在数 15 名 〕  
〔 出席理事数 13 名 〕

#### 4. 議事の経過の要領及びその結果

定款の規定に基づき井上会長が議長に就任し、理事現在数 15 名に対し、本日の出席理事は 13 名となり、定款で定める定足数を満たしており、本理事会が有効に成立していることが宣言された。また、議事録署名人として出席理事から、杉林堅次理事を指名し、事務報告の後、議案の審議に入った。

##### (1) 前回議事録の確認について

前回議事録（第 86 回理事会：令和 5 年 9 月 26 日開催）について、全会一致でこれを承認した。

##### (2) 任期満了に伴う役員（理事、監事、会長及び副会長）の選考手続き等について

井上会長から、現役員任期は、令和 6 年 6 月開催の第 1 回通常総会の終了までとなっており、来年度改選を行う必要がある等の説明があり、次いで小池事務局長から「資料 3」に基づき、選考日程等の説明があった。

- ・各大学から「議決権を有する者」の届出及び「理事候補者」の推薦

(事務局からの提出依頼：令和6年3月1日)

(事務局への提出期限：令和6年3月21日)

- ・各ブロック理事候補者の選出

(事務局からの選出依頼：令和6年4月1日)

(事務局への提出期限：令和6年4月18日)

協議の結果、これを承認し、11月28日開催の第2回通常総会に諮ることとした。

### (3) 令和6年度事業計画(案)について

小池事務局長から「資料4」に基づき、「令和6年度事業計画(案)」について説明があり、協議の結果、全会一致でこれを承認し、11月28日開催の第2回通常総会に諮ることとした。

### (4) 令和6年度収支予算(案)について

小池事務局長から「資料5」に基づき、「令和6年度収支予算書(案)」について説明があり、協議の結果、全会一致でこれを承認し、11月28日開催の第2回通常総会に諮ることとした。

### (5) 令和5年度教育賞受賞者の選考について

井上会長(教育賞受賞者選考委員会委員長)から、「資料6」に基づき、本年度候補者5名(特定の事業に功績のあった者として、協会の各種委員会委員長からの推薦が4名及び大学からの推薦が1名)について、略歴、功績等の説明があった。

次いで、本日午前中に開催した同選考委員会において検討が行われ、各種委員会委員長から推薦があった4名については、広く薬学教育の発展に寄与するとともに、薬学教育に関する普及・啓発活動等に顕著な業績が見られることから、教育賞受賞候補者としてふさわしいと判断し、推薦することとした旨の説明があり、本理事会で協議の結果、これを承認し、11月28日開催の第2回通常総会に諮ることとなった。

(「教育研究問題検討委員会」による推薦)3名

武田 香陽子(北海道科学大学薬学部 教授)

高橋 秀依(東京理科大学薬学部 教授)

真野 泰成( // )

(「共用試験検討委員会」による推薦) 1名

出口 芳 春 (帝京大学薬学部 教授)

関連して、令和5年度教育賞受賞候補者の中で、薬学部教員以外の他の学部等の教員を経験した者の経験年数の取扱いが議論され、その結果、教育賞受賞の趣旨が、薬学教育に多大の貢献をし、薬学教育の進歩発展に特に功績のあった者(同規程第1条)とあることから、この趣旨に則り、私立薬科大学及び私立大学薬学部以外の教員として勤務した経験年数は考慮しないこととし、所属区分を明確化した。

このための教育賞実施規程第2条の規程改正を行うこととし、改正案について説明があり、協議の結果、これを承認し、11月28日開催の第2回通常総会に諮ることとなった。

同規程第2条(受賞資格)の改正内容

(現行)教育賞は、協会加盟の大学に原則として10年以上継続して  
(「以下「略」)

(改正案)教育賞は、原則として協会加盟の大学の薬学部に10年以上継続して(「以下「略」)

#### (6) 第2回教育研究問題検討委員会の報告について

井上会長から、本委員会に関し以下の説明があった。

「本委員会の役割として、6年制薬学教育の在り方を議論することを目的に、理事の方々から若手の教員等を委員として推薦いただき、これまで2回の委員会を開催した。その中で特に「薬剤師国家試験の在り方」について活発な意見交換が行われたこともあり、さらに議論を深めるため、本委員会委員に加え薬剤師国家試験問題検討委員会の委員も参加した形で委員会を開催したい。さらに、国家試験に関心を持つ若手教員の推薦を理事の方々をお願いしたい。この委員会で議論し、私立大学として薬剤師国家試験のあるべき姿の考え方を取りまとめ、私立薬科大学協会として提言することを検討したい。」

次いで、井上会長から、委員会での議論(国家試験と薬学共用試験の在り方、基礎科目の出題内容、範囲、今後の在り方等)について報告があり、意見交換を行った。

#### (7) 広報誌「6年制薬学ガイド2025」の刊行について

井上会長から、今回の編集から委員長を交代することとし、委員長を亀井理事にお願いする旨の報告があった。

次いで、亀井委員長から「資料7」に基づき、今回刊行する「6年制薬学ガイド2025」の編集形式について、誌面の枠組みを、縦組みから横組みに変更することとし、また編集内容については、病院薬剤師の取り組み（倉敷中央病院）、女性の健康をサポートする薬局薬剤師を取り上げ、大学の学びでは、薬学教育モデル・コア・カリキュラム（令和4年度改訂版）の内容を織り込み、卒業後の進路では、6年制薬学部を卒業した者を中心に上げることとする等の説明があった。

なお、発行時期については、来年3月中旬頃を予定しているとの報告があった。

#### （7）薬学教育協議会について

本間参与（薬学教育協議会代表理事）から、「資料8」に基づき以下について報告があった。

##### ① 令和5年度（第9回）薬学教育教科担当教員中央会議について

薬学教育モデル・コア・カリキュラム（令和4年度改訂版）の円滑な実施に向けた活動について、担当教科でコアとして適切かつ必要と考えられる実習や演習内容に関して議論し、まとめて欲しい旨依頼した。

##### ② 2025（令和7）年度実務実習実施日程（原則）について

##### ③ 令和5年度文部科学省委託事業の進捗状況について

###### ・薬学実務実習のガイドラインの改訂について

WGで検討中だった「薬学実務実習のガイドライン改訂版」がまとめられ、12月に開催予定の「病院・薬局実務実習推進委員会」に提案し、承認を得られたら公表する予定である。

今後、説明会を開催するが、オンデマンドで視聴できるよう準備している。

また、追加となる8週間の実務実習実施方法等を検討するための委員会を立ち上げることを考えている。

###### ・「薬学教育モデル・コア・カリキュラム（令和4年度改訂版）」の英語版作成のためのWGを立ち上げ、委員長を北海道科学大学の武田香陽子教授にお願いした。

###### ・薬学研究科4年制大学院の在り方について

###### ・4年制薬学教育の今後について

#### （9）薬学共用試験について

中村副会長（薬学共用試験センター試験統括委員会委員長）から、

「資料 9」に基づき「2024 年度薬学共用試験実施予定案」の試験日程等について説明があり、詳細は、今後開催される全国薬科大学長・薬学部長会議の理事会、総会に提案し、協議をお願いする予定であるとの報告があった。

議長は、以上をもってすべての議案の審議を終了した旨発言し、14 時 10 分閉会を宣言した。

以上の議決を明確にするため、本議事録を作成し、議長及び出席理事(指名された議事録署名人)、監事がこれに署名捺印する。

令和 5 年 11 月 20 日

一般社団法人 日本私立薬科大学協会

議 長	井 上 圭 三 (押 印 済)
出 席 理 事 (議事録署名人)	杉 林 堅 次 (押 印 済)
出 席 監 事	富 田 基 郎 (押 印 済)
出 席 監 事	市 川 厚 (押 印 済)